

自力	釈迦の空	<p>自分という枠</p> <p>縁起の真理</p> <p>自力も他力も：自分B(自我)が消える→苦が止む→方法は色々。</p> <p>■自分という枠はあるが、自分というものは原因・条件(縁起)で消滅を繰り返すので本質(実体)はない。</p> <p>■「空」とは、形(枠)はあるが本質はない。</p> <p>四法印→四聖諦→八正道(正見…思・念・定・語・業・命・精進)→自分B(自我)が消える→悟り。 八正道</p>	哲学(超越者なし)
	鈴木大拙の空と悟り	<p>絶対現実・空の大地</p> <p>絶対現実・空の大地…非有無論の世界</p> <p>絶対矛盾に見えるものが、ここでは自己同一。</p> <p>無分別の世界・絶対無(西田)・空(無)</p> <p>有-無、善-悪、生-死、幸-不幸…対立。</p> <p>自由とは、主体と客体が一体となる事である。一体となることが悟りである。悟りのない所に自由はない。(鈴木大拙)</p> <p>主体(自分A) = 客体…悟り 公案・坐禅</p>	
	内田自空図	<p>自分図</p> <p>自分B(自我)が「書きなぐり」で消えて、点になる。</p> <p>自分図と空自一体：自分B(自我)を書きなぐり・発散してしまうと、何も浮かばない無心の状態になる。</p> <p>自我が消えると左図の様な点世界となり、それが空=絶対現実=色となる。次に、空と自己が一体になり、「空自一体」が体験される。最後に「空自一体」に成りきる。→自悟禅(悟り)。</p> <p>書きなぐり・発散</p>	
	般若心経の空と悟り	<p>全てのものは、縁起の法則(原因・条件)で消滅を繰り返すので、もの本質を問う事はできない→空である。</p> <p>五蘊(ごうん)…色(目に見えるもの・肉体とか物質)、受(感覚・ものを見る)、想(知覚・脳に伝わる)、行(意志・試してみる)、識(認識・今何をしている)。</p> <p>◆色(目に見えるもの)→縁起で消滅を繰り返すので本質は問えない→空である。</p> <p>同様に、受・想・行・識も空である→五蘊皆空(ごうんかいくう)→五蘊は空である。</p> <p>同様に、感覚作用・無明老死・苦集滅道もない→空である。→悟りの完成。</p> <p>◆般若波羅蜜多心経→般若(智慧)、波羅蜜多(悟りの完成)、心経(大切な経) 五蘊皆空</p>	
他力	道元の悟り	<p>身心脱落・悟り</p> <p>空=現成=絶対現実=色</p> <p>正法眼蔵：「仏道をならふというは…身心をして脱落せしむるなり」→仏道を学ぶ事は、自己を学ぶ事。自己を学ぶ事は、自己を忘れる事。自己を忘れる事は、方法(全ての存在)によって証(さと)らされる事。方法に証(さと)らされるとは、身心脱落…自己・他己の意識や執着心等がなくなる事…である。</p> <p>自分B(自我)が消える→自分意識が抜け落ちる→身心脱落…悟り(釈迦・正法)</p> <p>只管打坐</p>	宗教(超越者あり)
	空海	<p>真言宗：三寶(手に印を結び、口に仏の真言を唱え、心が仏を観じる)という神秘的な行により大日如来と一体化し、この身がそのまま仏になるという即身成仏を可能とした。</p> <p>三寶行</p>	
	日蓮	<p>日蓮宗：12歳で出家し比叡山等で学んだ後、32歳で故郷に帰り、法華經こそ仏陀の真の教えであると確信し、「南無妙法蓮華經」の唱題による即身成仏を説いた。</p> <p>唱題</p>	
自力	法然	<p>浄土宗：15歳で比叡山に入り、天台宗等を学んだが悟りを得られず、阿弥陀仏の本願による救いの道を確認。念仏(南無阿弥陀仏)を唱えれば極楽浄土へ行けると説いた。</p> <p>念仏</p>	来世思考
	親鸞	<p>阿弥陀仏</p> <p>自分B(自我意識)</p> <p>自分A(他力)</p> <p>自分Bが消える→即得往生</p> <p>①親鸞は、二種回向(往相回向と還相回向)と、二種往生(真仏浄土と化身浄土)を説いた。他力念仏の人は真実の浄土に行き、自力の立場での念仏の人は仮の浄土に行き→真仏浄土へ。</p> <p>②親鸞の即得往生の考え：浄土は来世ではなく、現世で自力の考えを止め、弥陀の本願力としての他力に任せきった時(金剛心)に得られる悟り。金剛心=菩提心=他力…非来世思考</p> <p>念仏</p>	
	キリスト教	<p>神</p> <p>自分B(自我意識)</p> <p>自分A(エクハルト)</p> <p>自分Bが消える→神で満たされる</p> <p>人間の死は原罪により避けられない。しかしイエスの罪の贖いにより、イエスを信じることで人間の罪が赦され、神との和解が赦され永遠の生命(霊的生命)が与えられる。エクハルト：自分の心が空っぽになった時、神で満たされる。</p> <p>信じる</p> <p>イスラム教</p> <p>人は唯一神アッラーの前では平等。コーランによれば、現世より来世に重点が置かれ、神と来世を信じて良いことを行うと楽園に行ける。</p> <p>信じる</p>	
他	<p>祖霊信仰と、あの世とこの世</p> <p>①人が死ぬと初め荒御霊で、33年位で和御霊・祖霊になる。祖霊は里近くの山に昇り、正月やお盆に子孫のもとに帰る。祖霊→祖霊神に。</p> <p>②人が死ぬと、魂は先祖の待つあの世(あべこべの世界)に逝く。あの世の朝はこの世の夕方当たる。最近まで葬儀を夕方行う習慣があった。</p>		

参考資料：■①流れ図■④空(くう)について。■⑤自分図と書きなぐり発散。■⑩原始仏教と日本の大乘仏教

参考文献：日本の宗教(田中治郎著・日本文芸社)、ブッダのことは(スッタニパータ、中村元訳・岩波文庫)、鈴木大拙(現代日本思想体系8・筑摩書房)、仏教(渡辺照宏著・岩波新書)、『教行信証』を読む(山折哲雄著・岩波新書)、教行信証(親鸞著・金子大栄校訂・岩波文庫)、般若心経(金岡秀友校注・講談社文庫)、すらすら読める正法眼蔵(ひろさちや著・講談社)、魂は千の風になりますか?(ひろさちや著・幻冬舎)、死に直面したあなたに(内田 誠著・死生学研究会)。

© 2013 死生学研究会
死生学研究会
Thanatology Research Center
TEL 042-624-1355